

第8期インターンシップ最終報告書

第8期インターン生

ニックネーム： ぶん

1. 研修の目的

現在、会津若松市では大熊町が加わったことにより、新しいまちづくりが行われようとしている。そんな新しいまちづくりの中での地域コミュニティがどのように行われているのか、実際に現場に触れることで知る。そして「地域コミュニティ再生に向けて何が必要か」ということを考える視点から「まちづくり」の理解を深めることを目的としていた。

2. 研修・作業内容

【会津での研修】

A. カラオケ巡回バス

<全体の流れ>

① 仮設住宅入居の人々の「カラオケ巡回バス」の認知度を高め、参加を促す

② カラオケ巡回バス実施

③ アンケートを取る ⇒

作成	⇒	宿と仮設住宅のギャップ・満足度
		1人で孤立している人の情報収集・定期的訪問

<企画を広める方法>

① 各仮設住宅を回り、自治会の有無の確認

② 掲示板があればポスター掲示

③ 自治会がある場合…自治会により日程の決定を目指す

自治会がない場合…個人に呼び掛け → 反応がよいとは言えない。

<仮設住宅の訪問について>

① 東部公園（7/26）

自治会・集会場がなく、住民どうしのコミュニケーションもあまりない

→現段階では個人での予約は難しい

② 松長近隣公園 (7/26.28)



- ・松長コミュニティセンターにて大熊町民のお茶会が開催されていた (7/26 10:00-13:00)
大熊町民とのヒアリング
→二次避難場所での状況など
 - ・原瀧にとっても感謝
 - ・車がないと何もできない
- ・松長コミュニティセンターにポスター掲示

③ 扇町一号公園予定地 (7/26)



- ・大熊町の役所の方が2名ほどいるが、説明しても受け入れられない。
- ・「聞く人がいないとストレス発散にならないのではないか」と少人数での実施に否定的。

④ 河東学園 (7/27,28)



- ・自治会がしっかりしている
- ・会長、副会長、防犯委員長など
→企画に前向きな姿勢
- ・優しく対応してくれた方が多い

<気付き>

- ・仮設住宅の方は外から入ってくる人に強い警戒心がある
- ・役場の方はあまり企画に関わろうとしない

- ・「カラオケ巡回バス」には不安要素がある
 - 企画の仕組みが理解しにくい、騒音問題、トイレなど
- ・自治会がある地域とない地域でまとまりや雰囲気が大きく違う。
 - 「カラオケ巡回バス」等の様々な行事を決めやすい
- ・会津美里町で行われる企画は「カラオケ巡回バス」を含めスムーズに実施決定
 - 役場が関与していない

B. 観光協会 (7/29,8/2)

<内容> 事務作業

- ・避難者受け入れ人数確認
- ・郵便物作成 (メール便)
- ・商品の袋詰め
- ・プリントをFAXで送る
- ・東山温泉へカレンダー配り
- ・標示の作成

<気づき>

- ・電話、来客がひっきりなしに来る。
 - ・仕事の範囲がとても広い
 - ・カレンダーが大量に余っている
- 仮設住宅の方々にあげたらどう

} 少人数で全ての仕事をこなすことはかなり大変

C. 原瀧 (7/29,8/2)

<内容>

- ・お昼ごはんの運搬、片づけ
- ・避難者の人数チェック

【自治会長のお話より】

- ・きんちゃくが話すきっかけに (趣味の一致)
 - 手芸が好きな人が集まる (年配の方8名)
 - 若いママさん達も興味を持つようになる
- ・ハートマーク♥ビューイング
(ハートをつなぐ刺繍作り)
 - 年代関わらず仲良く作成



ハートマーク♥ビューイング

- ・避難者の中には体が不自由で一人暮らしさせられない人もいる：現在検討中
- ・冬に大熊町民にとって慣れていない大量の降雪が不安

<気づき>

- ・原瀧のスタッフが避難者と親戚のように親しく接している
→ 避難者の心のよりどころ
- ・きっかけを作れば、避難者同士が仲良くなれる
- ・身寄りのないお年寄りは、原瀧から人が減っていくのが寂しそう

D. 新潟県新潟市古町 物産販売 (7/30)

<気づき・印象>

- ・「さるなしドリンクがよく売れる」
→ さるなしがめずらしいから (質問者多数)
- ・全体的に値段が高いとの声が多い
- ・商品が見やすい陳列の工夫
- ・ニュースレターは三つ折りで配布すると、
受け取ってもらいやすい
- ・「福島」と聞いた瞬間に立ち止まり、
買ってくれたおじいちゃんに感動した



E. 瀧のや (浸水被害の復興作業) (8/1)

<気づき>

- ・被害を受けているにもかかわらず、みんなが
とても明るい
- ・「これからまた頑張ればいいよ」と笑顔で言っ
ていたのが印象的
- ・近所のお食事処で無料でみんなに料理を提供
していたことに驚き



【いわきでの研修】

F. ニイダヤさん (8/12・サザンパシフィックホテルにて)

おいしい、安心、安い干物づくり



- ・アレルギーの方も食べられる
- ・添加物が、素材の味



時間と手間がかかる⇒**儲けなし**



工場が津波の被害を受ける ⇒ また別な場所で再開し、皆に食べさせたい

<気づき>

- ・儲けを出すためにはどこかの工程で手間を省く必要がある
⇒ ニイダヤさんでは**儲けよりも手間**を重要視
- ・商品は前から作っている人には勝てない
⇒ 商品のアイディアは誰も行っていないものである必要がある

G. 会津暦

8/6 芥川先生に話を聞く

8/19 暦をエクセルに打ちこむ

暦を手帳にする際のデザインを考える

<気づき>

- ・暦をエクセルに打ちこむ作業は簡単
手帳の基礎を考える**仕事**は頭も時間も多く要する
- ・若い人たちでも見やすい会津暦の手帳を作る
⇒幅広い年代に興味を持ってもらう ⇒ **観光**へつなげる

3. 課題達成度

◎一部ではあるが、地域コミュニティに必要なものに気づくことができた

- ・自治会があり、しっかりしていること
- ・自治会が住民と近い存在であること
- ・外の間人が仮設住宅の人たちが仲良くなるきっかけをつくること
- ・心のよりどころをつくること（原瀧のスタッフさんのように）

○会津暦について、研修期間内にはあまり時間をかけて研修する事が出来なかった

⇒ 研修期間後も会津暦に取り組みたい

●一番大事なハウ・レン・ソウを怠った

報告はまめに、勝手に突き進まないこと

4. 自身の今後のキャリアにどう生かすか

- ・自身が役場への就職を希望

役場の方が入り込むと事がスムーズに行われないという現状

→ 地域の方と近い存在・現場もよく認知している役場人でありたい

- ・ハウ・レン・ソウ を忘れないこと

5. まとめ

【この研修を通して…】

- ・自分の気持ちの面で大きな変化があった。

失敗したくない → とにかくやってみよう という気持ち

- ・話し合いと実際に現場を訪れたとき感じは全く違う

→現場に行ってみて分かることがたくさんある

- ・さまざまな方の意見を聞いてみる大切

- ・報告、連絡、相談